

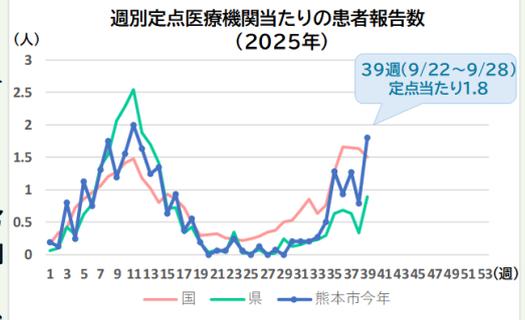


## RSウイルス感染症について

RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多い感染症です。何度も感染と発病を繰り返しますが、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。

◆**症状について**◆ 発熱、鼻汁、咳などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。RSウイルスの初回感染時には、より重症化しやすいといわれています。特に生後6か月以内にRSウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎など重症化する場合があります。

◆**感染経路と予防について**◆ RSウイルスは主に接触感染と飛沫感染で感染が広がります。接触感染対策としては、こどもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤などで消毒し、流水・石鹸による手洗い、またはアルコール製剤による手指衛生が重要です。飛沫感染対策としては、鼻汁、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクが着用できる年齢のこどもや大人はマスクを使用することが大切です。



増加傾向のため、注意が必要です!

◆**治療方法と受診の目安について**◆ RSウイルス感染症には特効薬はありません。治療は基本的には対症療法を行います。咳がひどくなる、呼吸が苦しう、食事や水分摂取ができない時などは早めに医療機関への受診をご検討ください。

定点種別	疾患名	状況	38週(9/15~9/21)		39週(9/22~9/28)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	-	6	0.26	10	0.42
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	/	180	7.83	138	5.75
	急性呼吸器感染症(ARI)	/	1086	47.22	1360	56.67
小児科	RSウイルス感染症	/	11	0.79	27	1.80
	咽頭結膜熱(プール熱)	-	1	0.07	4	0.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	7	0.50	11	0.73
	感染性胃腸炎	-	44	3.14	51	3.40
	水痘(みずぼうそう)	-	2	0.14	5	0.33
	手足口病	-	10	0.71	5	0.33
	伝染性紅斑(りんご病)	○	49	3.50	72	4.80
	突発性発しん	/	17	1.21	9	0.60
	ヘルパンギーナ	-	0	0.00	3	0.20
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	-	0	0.00	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	-	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	-	6	1.20	11	2.20
基幹	細菌性髄膜炎	/	0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎	/	1	0.20	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	/	9	1.80	16	3.20
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	/	0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	/	0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。  
○:警報レベル △:注意報レベル -:警報・注意報レベルなし